

劇人 ひと 場生



夫や姑と暮らした池島の市営住宅を描いた「夏の日」(昭和35年7月、油彩)

平和の願い画布に込めて 川島恵美子さん(80)(八幡)

〔第3幕〕
 (前号あらず) 鹿児島で空襲下を生き延びた私は戦後の女学校時代、平和の空に響く桜島に感動、初めて油絵を描いた。高卒後、神戸の税務署から港区の運輸会社へ。その首切り反対闘争の中で活動家の夫と出会い結婚。絵が好きで娘の理解もあり絵画人生も順調に推移していた頃、あの安保闘争があった。



新しい命に励まされ初個展

「夏の日」を描いた頃、西区の会館で行なわれた学習会に参加したり、大阪駅前集會や御堂筋デモに参加したりしました。もう一つの市営住宅がありました。昭和三十五(一九六〇)年は歴史的な日米安保条約改定反対闘争が最大の盛り上がりを見せた年でした。同じ頃、九州の三井三池炭鉱では大量首切りを巡って労使が対立していました。この年、空襲を体験

生き方としての絵画。そうして五月、北区の画廊で初めての個展を開いたのです。出品したのは「赤い倉庫」「労働者」などの油絵約三十点でした。当時は「生まれてくる子に、個性、特に女性のそれは珍モノや力ネは残してやれなく、注目を集めました。しかし結局、この年六月、新安保条約は成立し、九れ、成長してから目にする「やっばり女の人や」など感心



二室戸台風が大阪を襲いました。会社ではこの日、女性はずく帰宅するよう言われていました。鹿児島で「台風慣れ」していた私は退社前、男性社員のためにサンドイッチを山ほど作ってあげ、大変喜ばれました。しかし、この台風による水害で、それまでの作品はほとんど水没してしまいました。絵を失ったショックは大きく、暫くは二回目の個展開催への意欲もほとんど失いました。(つづく)

みなとプロレス始動 波乱の展開 観衆大喜び

「不況に苦しむ地域を元気に！」と港区史上初のプロレス団体「みなとプロレス」が始動。その旗揚げ興行が一月二十三日、港区民センターで開かれました。前半五試合では催眠術も使った「グレートライザー」、連係抜群のクボタブラザーズ(双子)など個性派レスラーが迫力と笑いに満ちたパフォーマンスで、詰めかけた観衆を大喜びさせました。



波乱続きでレフェリーも右往左往した「みなとプロレス」旗揚げ興行。一月二十三日、港区民センター

「試合はファツカースの挑発でいきなり場外にもつれ込み波乱の展開。金棒や浅いミツキーは覆面を破られ、女性のH.A.R.U.は毒霧を浴びました。会場には「反則きたねーぞー」の声も飛びましたが、十五分二十四秒、ミツキーがフォールされ、ラスカルズのリベンジは成りませんでした。懐かしのプロレスを(試合後、顔面の毒霧赤も生々しいH.A.R.U.は必死で食いついたが及ばなかった。シングルでも負けな

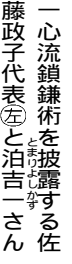
迫力と切れに感嘆 新年の三社神社で武道奉納

新年恒例の「神道夢想流杖道演武会」が一月八日、三社神社(磯路2)で行なわれ、観衆を魅了しました。杖道はやればやるほどその深さに魅了されます。これからは「神道夢想流杖道・弁天道場」が主催、四回、本殿でお祈りを受けた道場生二十四人は凛々しい紺の稽古着姿で境内に登場。①神道夢想流杖道②露神道流剣術③一心流鎖鎌術④内藤政子代表(左)と泊吉(右)さん



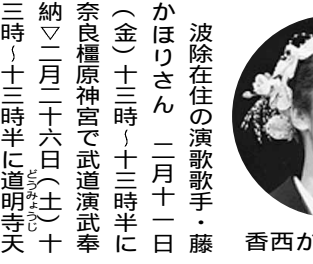
波除在住の演歌歌手・藤かほりさん

もキャリアを重ね、次は必ず勝ちたい。そして、小さく弱いが私がかけて強い相手に向かっていくことで、



波除在住の演歌歌手・藤かほりさん

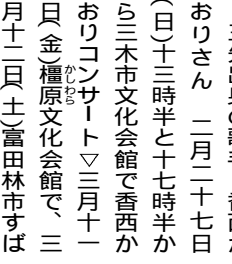
「打つ」突く「払う」などの多彩な展開が可能。①護身術②健康法③心身統一法としても注目されています。



波除在住の演歌歌手・藤かほりさん



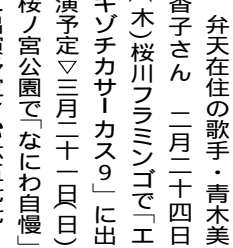
波除在住の演歌歌手・藤かほりさん



波除在住の演歌歌手・藤かほりさん



青木美香子さん



藤かほりさん

替表
 ★日産120帖OK ★夜間作業OK
 <フスマ・クロス等リフォーム一式>
 ㈱あおい産業 0120-87-2214
 港区港晴4-12-4

味で勝負!
 本格炭火焼の焼鳥もつ焼を大衆料金で。女性や家族連れも楽しめますよ。
 津~ちゃん
 磯路3-1-1バス停港区役所前 定休日:木曜
 ☎6574-5137 営業17:30~23:30 (ラストオーダー23:00)

勉強会・打ち上げ・会食・お泊まり等々
あらゆる集まりは地元の経営開発研修センター
 会議室5(72名、45名、16名、24名、10名) 個室50(各室バス・WC・TV付) 一泊朝食付5,000円
 三井住友銀行・みなと通り
 河村病院 港南中学
 至大阪港 至境川
 U.F.J銀
 三先1丁目6-3(港南中学校向かい) ☎6574-5701
 http://www.keieikaihatu.co.jp mail:kenshu@keieikaihatu.co.jp

より良い 余生のために 自叙伝を
 地方から上阪して会社を立ち上げ、経営してきた歴史を社員や家族にも知ってもらい、今後に生かしたいと、断片的に書きとめた文章をもとに、冊子にしてみました。写真も何枚か入り、自費出版などせずとも、これで充分と喜んでいきます。(市岡・60代男性)
 お話をききとり、冊子にしてお渡します。
 400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。
 田中3-3 飯田編集事務所 ☎6571-4636